STRATEGIA DEL RAGNO

暗殺のオペラ

監督ベルナルド・ベルトルッチ

恐ろしいまでに甘い
夏の夜—
オペラ『リゴレット』の開幕が
父の死の謎を告げている…

「ラストタンゴ・イン・パリ」の
鬼才ベルトルッチが鮮烈に描く
現代世界文学の巨峰
ボルヘスの世界！

ジュリオ・ブロージ
アリダ・ヴァリ

脚本 ベルナルド・ベルトルッチ
マリル・パロリーニ
エドゥアルド・デ・グレゴリオ
原作 ホルヘ・ルイス・ボルヘス
《伝奇集》「裏切り者と英雄のテーマ」による
（集英社刊）
撮影 ヴィットリオ・ストラーロ
音楽 ヴェルディ シェーンベルク
製作 ジョヴァンニ・ベルトルッチ
イタリア映画RAI＋Red Film製作
テクニカラー

傑作を世界からはこぶ
〈ハウ・シリーズ〉 HOW

フランス映画社提供

監督ベルトルッチ 原作ボルヘス

暗殺のオペラ

STRATEGIA DEL RAGNO

傑作を世界かとはぶ パウ・シリーズ

BOW

〔スタッフ〕監督ベルナルド・ベルトルッチ／原作ホルヘ・ルイス・ボルヘス（邦訳＝篠田一士氏訳、集英社刊〈伝奇集〉「裏切り者と英雄のテーマ」）／脚本B・ベルトルッチ、マルル・パロリーニ、エドウアルド・デ・グレゴリオ／撮影ヴィットリオ・ストラーロ／美術・衣裳マリア・パオラ・マイノ／タイトルバックの画リガブエ／音楽ヴェルディ、シェーンベルク、ミーナ／録音ジョルジオ・ペローニ／編集ロベルト・ベルニャーニ〔キャスト〕アトス・マニャーニ（2役）＝ジュリオ・ブロージ／ドライファ＝アリダ・ヴァリ／肉の味きき屋ガイバッツィ＝ピッポ・カンパニーニ／教師ラゾーリ＝フランコ・ジョヴァネッリ／映画館主コスタ＝ティノ・スコッティ／イタリア映画RED FILM＋RAI＝970年製作／テクニカラー・スタンダード＝時間39分／1971年度ルイス・ブニュエル賞受賞／フランス映画社配給

〔ストーリー〕

空を圧倒する真夏の暑気のなか、汽車がかろやかにとまって、青年アトス・マニャーニがタラの駅におりたつ。未知の婦人ドライファから、彼の父の死の謎について話しあいたいからとの招待状をうけてこの町にきたのだが、町には、いたるところ、彼と同じ名前だったという父アトス・マニャーニの名を冠した広場や建物や、さらには、《1936年、ファシストの凶弾に倒れし英雄アトス・マニャーニ》と銘の入った胸像すらある。しかも不思議なことに、町には、老人か子供しかいない。

ドライファは美しい緑の邸宅にひっそりと暮していた。彼女が青年アトスを招んだのは、父アトスを暗殺した犯人が、事件から30年近くたった今も謎のままで、犯人を究明できるのは息子である青年アトスしかいないと思ったからだという。

父アトスは36年6月15日の深夜、町のオペラ場で、ヴェルディの《リゴレット》を観劇中に、何者かに背中から射たれて死んだ。警察は、父アトスが日頃から、ムッソリーニの黒シャツ党のファシストたちと勇敢に闘う革命家だったことと、死後、彼のポケットから、オペラ場に来れば殺すという脅迫状がみつかったことから、ファシストの犯行と断定して捜査をうやむやにしたのだった。

青年アトスには今さら面倒な事件だ。かかわりたくない。が、その夜、そして翌朝も、暴漢が襲ってきて、彼に事件の究明を断念させようとしているかのようだ。ドライファは、父のかつての最大の敵であった地主のベカッチアと、父のかつての三人の同志、肉の味きき屋のガイバッツィ、教師のラゾーリ、映画館主のコスタの居所を青年アトスに教える。

三人の同志の話から意外な真相がわかった——彼らは、ムッソリーニが新築のオペラ場のこけら落しのために来場すると知って、暗殺計画を実行しようとした。《リゴレット》第一幕の〝呪いの歌〟にあわせて銃殺する、と。だが、ムッソリーニは直前になって来場をとりやめ、オペラ場で殺されたのは父アトスだった。三人の誰かが裏ぎったのか？それともドライファがほのめかすように、地主ベカッチアのしわざか？謎が、整然と、無限にひろがっていく夕闇のタラの町。真実を明かすかのように、《リゴレット》の前奏曲がひびきわたる……。

〔解説〕

「暗殺のオペラ」は、「ラストタンゴ・イン・パリ」のベルナルド・ベルトルッチ監督の長篇第4作で、1970年、ベルトルッチ30才の作品。早熟で、まず詩人として世に出て天才とうたわれ、22才で最初の長篇映画（62年、『殺し』）を発表。24才で発表した『革命前夜』（64年）で絶賛をあび、その後数年間、ドキュメンタリー映画で視野を深めた後、あぶらののりきった連作——「暗殺のオペラ」（70年）、「暗殺の森」（71年）、「ラストタンゴ・イン・パリ」（72年）——の第一作として才気を爆発させたのがこの映画だ。以後、大作『1900年』（76年）、『ラ・ルナ』（79年）と世界的な話題作を発表しつづけているが、ベルトルッチの最高傑作としては、この「暗殺のオペラ」（原題《蜘蛛の戦略》）を挙げる人が、今も圧倒的に多い。

原作はボルヘス。ラテンアメリカ文学というより現代世界文学の最高峰、ホルヘ・ルイス・ボルヘスが1944年に発表した陰諭と啓示の哲学的コント集《伝奇集》（邦訳は篠田一士氏訳、集英社刊）の一篇「裏切り者と英雄のテーマ」の、ほぼ忠実な映画化であり、難解なボルヘス文学の映画化に成功したほぼ唯一の作品といえよう。原作の舞台アイルランドはベルトルッチの故郷を模したとみられる北イタリアの仮空の町タラに移され、原作の曽祖父と曽孫の関係は、主題をファシズムに鮮明にしぼりこむために父と子の関係におきかえられているが、ヴェルディのオペラ《リゴレット》を主題の中心にもちこむ大胆な改変によって、よりいっそうボルヘス原作の核心にせまり、高級推理小説の面白さを満喫させることにも成功している。

主役のアトス・マニャーニを二役で演じているのは、ミラノ・ピッコロ座出身のジュリオ・ブロージ。謎の婦人ドライファは「第三の男」「かくも長き不在」の名女優アリダ・ヴァリ。

全篇目を奪う色彩の撮影は、「暗殺のオペラ」以後のベルトルッチ全作品や、フランシス・コッポラ監督の「地獄の黙示録」のヴィットリオ・ストラーロ。夕景の恐ろしいまでの甘いブルーは、それまでタブーとされていた日没直後の40分に撮影を敢行したものだという。音楽はヴェルディ（《リゴレット》他）、シェーンベルク、そしてミーナの甘いカンツォーネが実に効果的につかわれている。

特別鑑賞券1000円

●劇場窓口、都内各プレイガイド、大学生協にて

好評発売中（当日一般1300円 学生1100円の処）

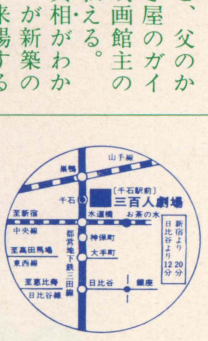
都営地下鉄・三田線〔千石駅前〕

三百人劇場 (944) 5451

上映時間〈連日〉

1:00	2:55	4:50	6:45

●但し、8月20日(月)は休館となります。



8月4日(土)より夏休みロードショー